

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2024年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務 鋼製高欄支柱基礎部打設工		作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋株	
工期	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日		作成者	金子 歩夢	
作業名称	無収縮モルタルによる打設工	作業手順書	作成年月日	令和2年6月1日	
使用機械 使用設備 (具体的な名称・ クラスを記す)	黄パト、連絡車、標識車、発電機(1.6KVクラス)パルーンライト ○トトラック		現場責任者		
使用工具 機器 (大きさ大さ等は具 体的な寸法を記す)	チッパー、コンプレッサ、ブロアー 電気ドリル		協力会社	会社名 自筆サイン	
保護具	安全靴、ヘルメット、安全チョッキ(点滅)、手袋、防護メガネ、防護マスク、反射脚絆		協力会社責任者		
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す	普通自動車運転免許、準中型自動車運転免許、中型自動車運転免許 振動工具取扱作業者(特)		作業順序 1 準備作業 2 工事車両進入 3 墨出し 4 ハツリ作業 5 発生材運搬 6 緩衝吸収止水材設置 7 打設工 8 清掃・後片付け 9 現場離脱		
作業人員 (当作業に関わる役 割と人員を全て記 す)	墨出し:1~2名、ハツリ作業:2~3名、発生材運搬:1~2名、 緩衝吸収止水材設置2~3名、打設工2~3名、清掃作業1~4名				
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)	周知会実施日			令和 年 月 日
	(役割を確認してこの作業に関わる 全員が自筆サインする)				

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○○	○△	○○	1:極めて小さい	関係者に対策の周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△○	△△	○△、△○	2:かなり小さい	関係者に対策の指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×○	×△	○×、△△、×△ △×、×△ ××	3:中程度 4:かなり大きい 5:極めて大きい	職長が確認 工事担当責任者が確認 十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知

作業項目 (誰が)	手順 主なステップ	急所 作業のポイント	リスクの洗い出し (予想されるミス・ロス)	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための 実施すべき事項の特定 (防止対策)
準備作業									
ミーティング	健康状態の確認	作業責任者(職長)が確認							体調不良の作業員は規制内へ入場させない
	免許・資格等の確認	作業責任者(職長)が確認							
	KYMの実施	作業員全員で							
			健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ・脚絆・ヘッドライト等)の充電確認・業務用プレートの確認、入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締め位置、荷台のネット・シート掛けの確認。工事車両幕がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。						
車両の点検・準備	車両の始業前点検、 工具の確認	運転手、全員							
	積荷の確認	積荷の状態	走行の中荷崩れ、飛散養生。	○	×	○	3	安	トラック積載状態を確認し、飛散対策で積荷を固定・ネット養生する。
工事車両進入	工事車両進入	指定の入口から	回転灯・逆走時ハザードの点灯、50km/h規制、プレート・通行券の確認、幕の設置、十分な照度の確保						
確認作業	埋設物・仮設物の確認	管理用図面での事前確認	図面、現地の確認をせず損傷させる。	△	×	△	4	公	作業員全員で確認する。(協議無しは保全許可済み)
墨出し	マーキング材での位置取り	ハツリ箇所の確認	墨出しを怠ることにより、ハツリ箇所を間違える。	○	△	○	2	品	作業員へ施工場所の説明、確認を行う。
ハツリ作業	※ハツリ作業に関する手順書参照								
	ハツリ深さの確認	チッパーの使用	ハツリ深さを考慮せず、構造物に影響を与える。	○	△	○	2	安	ハツリ深さを5cmまでとし、浮いている部分のみを撤去、健全部分を整形する。
	ハツリがらの飛散	橋梁下面への落下	飛散対策を行わず、橋梁下にがらを飛散させる。	○	×	○	3	公	地覆端部にコンパネ等を設置し、ハツリガラが飛散しない対策をとる。
	発生材の回収	回収・積み込み中	急ぎ作業で指を詰める	○	△	○	2	安	慌てず、手元注意
	粉塵の撤去	ブロアーの使用	ハツリ後の粉塵が残り、プライマーやモルタルの付着が悪くなる。	△	△	△	3	安	ブロアーで粉塵を飛ばし、1箇所ずつ素手による確認を行う。
緩衝吸収止水材設置	プライマーの塗布	刷毛等による塗布	プライマーの塗布量が少なく性能を満たさない。	○	○	○	1	品	接着面が濡れる程度までしっかり塗布する。
	材の切断	ハツリ深さの長さ調節	ハツリ深さよりも短く切りすぎ、打設時に埋まってしまう。	○	×	○	3	品	埋めるとそこからひび割れが発生するため、打設時に埋まらない長さに切り分ける。
打設作業	材攪拌時	電気ドリルの使用	攪拌時、防護メガネを着用しておらず、目に入る。	△	×	△	4	安	防護メガネの着用をする。
	モルタル作成・打設時	目や身体にモルタルが付着する	失明、かぶれの可能性	△	×	△	4	安	防護メガネ、手袋、防護マスクを着用する。
清掃・後片付け	清掃・後片付け	残材、工具の忘れのないように							
	積荷の確認	積荷の状態	走行の中荷崩れ、飛散養生。	○	×	○	3	安	トラック積載状態を確認し、飛散対策で積荷を固定・ネット養生する。
現場離脱	工事車両退出	指定の出口で一旦停止	通過車両と接触する。	○	△	0	0	公	通過車両の通行がないのを確認後退出。
現場離脱									工事車両幕を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事